



研究キーワード

インターネット運用技術, 組み込み, 工学教育, 分散システム

齊藤 明紀

SAITOH, Akinori

情報メディアセンター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科経営学専攻

saitoh@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 インターネット, 情報倫理, データ構造とアルゴリズム

研究者略歴

1991 (平成 3) 年 3月	大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻後期課程修了, 工学博士
1991 (平成 3) 年 4月	大阪大学基礎工学部情報工学科 助手
1994 (平成 6) 年 2月	大阪大学情報処理教育センター 講師
1999 (平成11) 年 4月	大阪大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻 講師
2002 (平成14) 年 4月	大阪大学 大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻 助教授
2004 (平成16) 年 7月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科情報システム領域主任(兼任)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学情報メディアセンター長 (兼任), 大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■取得学位 工学博士(大阪大学)

■専門分野 情報工学

■現在の研究テーマ
・分散システム運用技術
・工学教育

■受賞歴
1986 (昭和61) 年3月 大阪大学基礎工学部情報工学科楠本賞 (主席卒業) 受賞
2002 (平成14) 年5月 情報処理学会 平成13年度論文賞受賞
2012 (平成24) 年3月 情報処理学会 平成23年度山下記念研究賞受賞
2014 (平成26) 年10月 デミング賞委員会 平成26年度日経品質文献賞受賞 (「新版 信頼性ハンドブック」に対して)

■所属学会 情報処理学会, 電子情報通信学会

Data

研究等活動

【著書】

・ネットワークシステムの信頼性保証(分担執筆), 2014年7月, 新版 信頼性ハンドブック

【報告書】

- ・「個人必携パソコンによる情報環境 -- 鳥取環境大学の事例-」, 2016年9月, SS研究会教育分科会第1回会合
- ・「[WIP]情報 Consent 検査支援ツールへの取り組み」, 2014年12月, 情報処理学会IoTシンポジウム2014
- ・「Android端末を利用した乳幼児見守りシステム」(共著), 2014年12月, 情報処理学会IoTシンポジウム2014
- ・「情報 Consent のためのハブポート対応表調査生成ツール」, 2012年3月, 情報処理学会IoT-16-23
- ・「個人必携パソコンによる情報環境 -- 鳥取環境大学の事例-」, 2010年5月, 情報処理学会IoT-9-11
- ・「省電力のための運休スケジュール参照機能を持つ機器監視システムの試作」(共著), 2010年3月, 情報処理学会IoT-8-2
- ・「省力化を実現するための忘失パスワード再設定システム」(共著), 2009年3月, 情報処理学会IoT-4-29
- ・「鳥取環境大学のリテラシー教育への取り組み」(共著), 2006年9月, 大阪大学サイバーメディアフォーラム, No.6

【口頭発表】

- ・「サイバーセキュリティ 2022 ~技術と人間~」, 2022年11月, 鳥取県サイバーテロ対策協議会
- ・「サイバーセキュリティ 2018 ~技術と人間~」, 2018年11月, 鳥取県サイバーテロ対策協議会
- ・「サイバーセキュリティ 2016 ~技術と人間~」, 2016年11月, 鳥取県サイバーテロ対策協議会
- ・「問題提起 『日々是修行』の代わりは?」, 2015年9月, LightweightLanguage2015, ライトニングトーク

社会貢献活動

- ・日本UNIXユーザ会幹事
- ・関西オープンフォーラム実行委員
- ・鳥取県警察サイバーセキュリティ対策アドバイザー
- ・情報処理学会IoT研究会運営委員

文教情報システム設計の研究



情報メディアセンター長
経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻
教授

齊藤 明紀

SAITOH, Akinori

SDGs 関連項目



● 研究内容

教育用向け情報システム・情報ネットワークは同規模の企業向けシステムとは異なる特性があり設計の際に特有の配慮が必要である。たとえば一斉に同じ操作をする傾向が多い、多人数が日中に教室間で移動する、ユーザーアカウントの入れ替えが激しいなど。学生生徒一人1台の端末を持たせる動きが大学から高校へと進んでいるが、この特殊性を配慮せずにシステムを設計したために期待した教育効果が上げられない事例も発生している。主に、教育用情報システムや教育用ネットワークシステムの設計構築・運用管理の手法について研究している。

● 想定パートナー

- ・文教分野の情報システムの設計・施工を行う会社
- ・学校LANシステム導入を考える教育委員会

● 応用分野

- ・教育用情報システム設計
- ・教育用情報ネットワーク設計